

東日本大震災から4年

あの日を忘れない②

学習塾の本分生かして

「まだまだ復興が果たせていない東日本のお役に少しでも立てるよう」に、そして「東日本大震災を忘れず、生徒に伝え続けるために」。大牟田市や荒尾市に校舎を置く学習塾「有明塾」は震災発生後、毎年春に参加費を寄付に充てるチャリティー講習や模試を実施してきた。一昨年から同塾代表取締役の倉岡清児さん(43)が直接、現地を訪れて、支援金を手渡している。

第一回のチャリティ講習は震災発生から間もない平成二十三年三月末

「かしまみ」神社に二十万円を寄付した。昨年はアスト会社の協

「初めて被災地に行つた時は津波の高さなどの

同社へは「回目の寄付で、遠方からの継続した支援に感激していた様子だった。この程度の支援で、何が出来るのだろうという思いもあったが、忘れずに九州から来てくれる。そのこと自体に喜んでくださり、支援を続けていく必要を確信しました。」

「ス君」を受験生一人一人に配った。「忘れず、子どもたちに伝えていくことが大切ですね」。今年の夏も再び、東北を訪ねようと計画している。

(河野 美緒)

講習や模試で復興支援

に実施。「学習塾の本分を生かして、生徒のためになることをしながら、復興に貢献できないか」と考え、開講に至った。

以来、毎年続けていたが、一昨年は東北に赴いて支援活動をしている知人に誘われ、「少しでも目

力を受けて、チャリティ模試を実施。模試の前にはワークショップを行い、復興のために必要なこと、今の自分にできることを考えた。

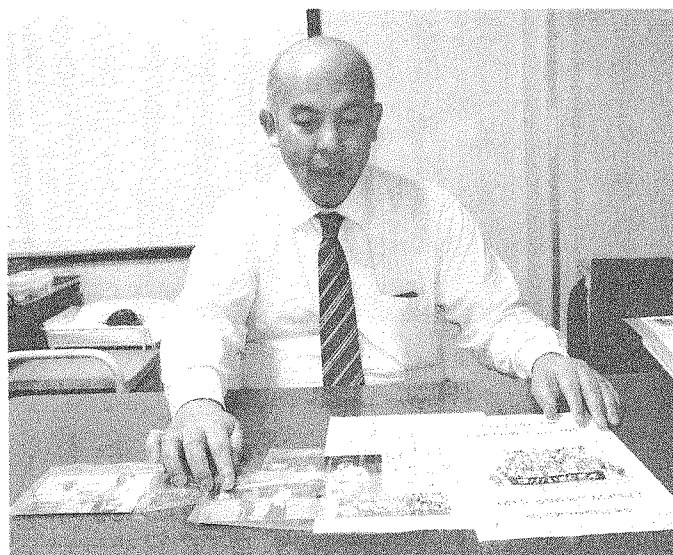
「まだまだ校庭の半分に仮設住宅が建ち並ぶ伊勢に通う小学生の中には

「まだまだ復興が果たせていない東日本のお役に少しでも立てるよう」に、そして「東日本大震災を忘れず、生徒に伝え続けるために」。大牟田市や荒尾市に校舎を置く学習塾「有明塾」は震災発生後、毎年春に参加費を寄付に充てるチャリティ講習や模試を実施してきた。一昨年から同塾代表取締役の倉岡清児さん(43)が直接、現地を訪れて、支援金を手渡している。

チャリティ模試の参加費二十四万六千円と同塾からの五万四千円を加

いまだに校庭の半分に仮設住宅が建ち並ぶ伊勢に通う小学生の中には

発生から四年がたち、



被災地への旅を振り返る倉岡さん